



IV-NEWS

Vol. **48**

その手に技術を、アジアに自立を。



ありがとう！35周年

1988年5月1日「国際ボランティアの会」は、さいたま市(旧大宮市)に誕生し、今年は創立35周年を迎えました。なぜ設立当初からタイを支援したかという、1980～81年に家族でタイに住み、中学生からガールスカウト活動をしていたため、タイでもガールスカウト活動を続け、タイのカノック会長と一緒に貧しいと言われた東北タイのスリン県や北部タイのチェンライ県等を訪れ、農家に泊り農村の抱える問題を学びました。カノック女史の姿から、帰国後は「開発教育」の【共に生きるために何が出来るか】を実践したい思いに駆られました。旧大宮市には当時300人のラオス難民が住んでいて、彼らから革命後開発が遅れている故郷を支援してほしいとの依頼で1994年からは東南アジアの最貧国ラオスに活動の場を移しました。35年が経過し、現在コロナ禍のためラオスはタイへの出稼ぎが50万人となり、40数年前のタイの農村を見るようです。また新たな課題を与えられ、「がんばるぞ！」という気持ちにさせていただいています。長年応援して下さった皆様に感謝、感謝です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。 IV-JAPAN 創設者・代表理事 富永幸子

もくじ

P2～P3 おめでとう 35周年 P4～P7 写真で見る 35年のあゆみ P8 各種お知らせ

IV-JAPAN35 周年おめでとうございます。

ラオスにおいて職業訓練や学校建設等を実施し、特に教育を受ける機会が少なく、経済的に貧しい青少年や女性に対し、長年、貴団体が職業訓練を通して人材育成に貢献したことは感謝に堪えません。多くの卒業生を輩出し、起業して活躍している人も多くいることは存じております。私の出身地のシェンクアーン県カム郡にも小学校や山岳民族生徒寮を建て、職業訓練を実施していただきました。私は約 20 年前に東北大学に留学し、日本の人々に大変親切にいただき、日本の文化のすばらしさに触れ、いつも懐かしく思っています。

今後も一緒にラオスの発展のために協働できたら幸いです。
(日本語インタビューによる聞き書き)



ラオス教育スポーツ大臣
Dr. Phout SIMMALAVONG

35th Anniversary

IV-JAPAN 創立35周年というこのおめでたい機会、冨永幸子夫人には心よりお祝いを申し上げます。

貴団体は2015年にネパールで発生した巨大地震の際、ゴルカ地区で多大な貢献をされました。皆様のためめめ努力を称賛いたします。

カトマンズ滞在中には、我々が注意をし続けていたにも関わらず、ラオスの山中で冨永代表が事故に遭われました。彼女には以前より「健康に気を付けて、首都近郊の安全で交通の便の良い場所でのみ活動されたらどうか」と提案させていただいておりました。

このような事態となり大変心が痛みましたが、常に挑戦し続ける彼女の精神には頭が下がります。

近い将来、ネパールにて IV-JAPAN と私の NGO 組織であるネパール・チャルカ・ブラチャラク・ガンジー・トゥラシ・マハグティ(NCPGTM)とで協力し、大きなプロジェクトに臨む機会が得られるのを心待ちにしております。(原文のまま)

ネパール・チャルカ・ブラチャラク・ガンジー・トゥラシ・マハグティ(NCPGTM)
ガンディーアシュラム理事長 Mr.Udaya Mohan Shrestha



在ラオス日本大使館
小林 賢一 特命全権大使



おめでとう35周年
皆様からのお祝いメッセージ

IV-JAPAN が、本年度で創立 35 周年を迎えられたことにお祝いを申し上げます。

IV-JAPAN は、1994 年からラオスでの活動を開始され、小学校や生徒寮の建設をはじめとした教育支援から、職業訓練校の建設、加えて主に地方出身の女性や青年を対象とした職業訓練を継続的に実施されてきました。更に、カノック奨学金やチャンパー山の民奨学金といった奨学金給付制度を通じて、学生や職業訓練生を支援していただいています。こうした長年にわたる御活動の結果、職業訓練を卒業した方々は 2,500 人以上、奨学金を給付いただいた学生は 3,000 人以上に達します。これらのラオスでの御活動も、来年で 30 周年を迎えることになります。

日本政府は、こうした IV-JAPAN の有意義な御活動を一貫して支援してきました。2007 年から 15 年以上にわたって実施されている「日本 NGO 連携無償資金協力」や JICA 草の根技術協力事業はその一例です。代表理事の冨永幸子さんは、こうした御活動の傍ら、ラオスにおいて茶道、華道、書道、着物、落語等の日本文化の紹介・普及にも御尽力されてきたほか、NHK ラジオのアジアレポートにおいて、ラオスリポーターも務めておられます。冨永さんの長年にわたる精力的な活動に対して、2017 年には在ラオス日本国大使館として在外公館長表彰をお渡しするとともに、2021 年には日本政府として外務大臣表彰をお渡しすることができました。

こうした IV-JAPAN の様々な取組は、創始者である冨永さんの温かいお人柄や幅広い人的ネットワークに支えられていると思います。これまでの御活動に改めて深い敬意を表するとともに、IV-JAPAN の今後のますますの御活躍に期待し、日本とラオスの友好関係の一層の発展を祈念して、私からのお祝いのメッセージといたします。

IV-JAPAN 創立35周年を心からお喜び申し上げます。

IV-JAPAN は、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)を活用し、ラオスで女性や青少年のための職業訓練の事業を長年に渡り実施して多くの女性や青少年の自立に貢献してきました。更に、N 連の前身である補助金にて東北タイで縫製職業訓練所を建設し、工業用ミシン12台を設置されたと聞いていますし、ネパールでも、N 連以外の資金ですが、女性の経済的自立促進のために職業訓練の事業を実施されていると承知しています。そのような各国での功績が認められ、2021年には富永幸子代表理事が外務大臣表彰を受賞されました。今般創立35周年という一つの節目を迎えられましたが、これからもタイ、ラオス、ネパールでの女性や青少年の自立のために大きな貢献をされていかれることを期待しています。

改めまして、この度の創立35周年おめでとうございます。



外務省国際協力局民間援助連携室長
松田 俊夫



IV-JAPAN 設立 35 周年を心よりお祝い申し上げます。

IV-JAPAN の皆様は、このような長期にわたり、教育や経済的に恵まれないラオスなどの青年・女性たちを主な対象とした幅広く多彩な職業訓練事業(縫製・調理・理美容・家具製作・ホスピタリティ・介護等)を実施されていらっしゃいました。これは、まさに日本の顔の見える活動を草の根レベルで展開して頂いたものであり、途上国の人々への協力に携わる仲間として、本当に感謝しております。なかでも富永代表理事の精力的なご活躍には驚嘆を禁じえません。

2020 年以降、世界中が思いもよらぬコロナの苦境に見舞われた中でも粘り強く継続して活動を続けられたメンバーの皆様のご努力は、まさに富永代表理事の 2021 年の外務大臣表彰と IV-JAPAN の JICA 理事長賞のダブル受賞にふさわしいものと感じております。

JICA ラオス事務所長
長瀬 利雄

ラオスの人々への支援に携わる JICA として、IV-JAPAN のますますのご活躍に期待してやみません。これからもどうぞよろしく願いいたします。

IV-JAPAN 様が創設 35 周年を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。

アジアの青少年の自立のための取り組みは、国内外において着実に、青少年や地域により良い変化をもたらしてきました。実直に活動を積み重ねる皆様の姿勢に、「人々・地域に寄り添う」と言う日本の NGO が大切にしている価値観が体現されていて、後進の私たちに勇気を与えてくださるのです。

また、テラ・ルネッサンスとは、タイ国際ボランティア財団の運営において連携をしてくださるなど、積極的に他団体との協働にも取り組んでおられます。私が理事長を務める「国際協力 NGO センター」にも長きにわたって、関わっていただいています。それらの関係性の中で、NGO としてのあり方をご教示くださっています。

これからも NGO の先輩として、その姿勢を貫いて、取り組みを深化されることを願っております。



NPO 法人国際協力 NGO センター理事長
認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス創設者・理事
鬼丸 昌也



IV-Japan の皆様、35 周年おめでとうございます。

1989 年に設立された SANE(サネ)にとって皆様は 1 年先輩です。

現地にスタッフを持たずカウンターパートを通して活動している私たちは、富永代表の現地での人生を賭けた活動をまぶしく見つめて来ました。それでも、現地でも国内でもより良い社会の基盤となる多くの人材が育ってきています。それぞれ活動スタイルは違っても、数々の困難を乗り越えて現地の人々と共にここまで継続できた喜びは同じですね。これからは、これまでの活動を根付かせて次の世代につなぐという、大きな課題に挑戦していけたらと願っています。

中堅 NGO 研究会共同代表
SANE 代表理事
杉田 優子

5 年後、10 年後にまた、平和な社会を支える新たな担い手と共に喜びの声を交換できるよう、お互いに力を尽くしましょう。

35th Anniversary

写真で振り返る35年のあゆみ

'88



ガールスカウト活動の実践教育はIV-JAPANの原点

'89

世界金裁大会
通訳ボランティア

タイ スリン県
ショベルカー寄贈



'90

カノック奨学金スタート



タイ・カノック・ガールスカウト会長と

'91

タイ語教室開始

渡久地澄子
沖縄支部長と



'92

タイ スリン県
プロジェクト訪問

タイ GS チェンライ県
職業訓練センター
5本取り工業マシン寄贈
日本人縫製指導者派遣



スリン市スラム開発教育センター 日本人指導者派遣



'93

第1回国際交流
スポーツ&ピクニック



'94

信越ポリカフ屋根材
500枚他輸送

パワ村小学校建設
教育支援



'95

シェンクアーン県ナーバー村
山岳民族生徒寮
トイレ建設

彩の国さいたま
国際フォーラム



小椋佳氏 チャリティ演奏会

'96

会員及び一般の集い
(十字屋)

シェンクアーン県
ノンヘト山岳民族
女性職業訓練所



'97

タイ国王より勲4等
ディレーク・クンアボン
勲章受章



'98

第1回ラオスW.C参加者



'99

第1回ラオスS.T参加者



最初のラオス事務所

2000

IV-JAPAN ビエンチャン
職業訓練所と事務所
ラオスタディーツアー



'01

地球倫理推進賞
受賞式
ラオス青年民族舞蹈団
日本招聘



'02

三林京子さん
プロジェクト訪問

縫製・織物専門家
照屋康子さんと



'03

タロモ小学校新校舎
建設中



ラオ手工艺品
フェスティバル
松本家具専門家と

タロモ小学校旧校舎



'04

タロモ小学校新校舎
完成



'05

タロモ小学校で
身体測定



美容コース実習



ラオスタディーツアー



モン族の小学校を訪問
衣類と文房具をお土産に…

ラオス職員から還暦祝い



ビエンチャン訓練所の
調理コース訓練生



'06

さいたま市内中学校にて
国際理解教育
調理研修生招聘



埼玉県
国際交流協会
ボンサイ小学校へ
井戸寄贈



'07

2007~10
JICA 草の根パートナー
職業訓練事業



ウィルライオンズクラブ
助成事業

'08

ヴィエンチャン職業訓練
生徒・講師寮完成
ノヴォテル・ホテルでの
接客研修



'09

ムアンシンの
少数民族の村
ノンヴィエン小学校
寄贈式



接客サービスを念頭に
置いた日本語指導

シコタボン中学校
女子生徒職業訓練



'10

日本 NGO 連携
無償資金協力



'11

ナーサイトン・プロジェクト
日本料理コース授業
ラオスで東日本大震災・
津波被災者支援
チャリティーコンサート開催



シンガポール財務大臣夫人訓練所視察



'11 ラオス大統領より
勲 2 等労働勲章授与
社会貢献者表彰受賞

'12

埼玉県国際交流基金より
トイレ寄贈



'13

タイ国チェンライ県
ビエンババオ郡
ガールスカウト職業
訓練所訪問



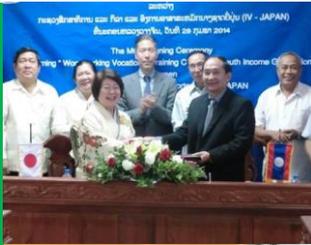
タイ国ランブーン県
男性刑務所訪問

親が受刑者の子どもに
奨学金授与



'14

MOU 調印式



'15

調理卒業生が
ラオプラザホテル
のレストランに就職
ネパール国ゴルカ郡
大地震緊急支援



'16

タイ国ビーン福祉財団
奨学金授与



シェンクアーン県タムスア村開校
伊藤裕子基金

'17

タソモ小学校
幼稚園贈呈式
在外公館長表彰



サッカーユニフォーム
(リサイクル) 寄贈

埼玉県
アジアフォーラムにて
県知事とラオス大使と



'18

ラオス タマヨート村
被災者キャンプ
支援物資



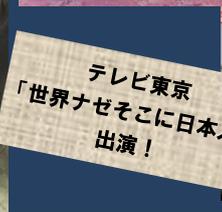
'19

ホエトレーナー技術
向上プロジェクト
高岡万景ロータリー
クラブ卓話



'20

ラオス家具フェア
縫製コース実習



'21

外務大臣表彰



JICA 理事長賞
受賞



'22

グローバルフェスタ
出展
高齢者介護職業訓練



'23

国際友好フェア
出展



ラオス千客万来

4月4日 テラルネッサンスXKH職員4名
 6月4日 テラルネッサンス日本事務局次長・カンボジア所長他1名
 6月14日 元職業訓練卒業生7名
 7月10日 元シンガポール大使夫人他1名
 8月7日 JICA ラオス所長
 8月11日 神戸大学スタディーツアー5名
 8月14日 沖縄JOCA2022 新豆君、前盛君



日本事務所

4月19日 中堅NGO研究会2名
 5月12日 長田茂雄様
 5月13日 井藤尚子様

いつもご寄付ありがとうございます。寄付者をご紹介します。

2023年4月1～2023年7月31日 ※敬称略・順不同

チャンパー山の民奨学金 寄付者 1口 60,000円

早坂健治(1口)

カノック奨学金 寄付者一覧 1口 12,000円

岡庭史子(2口) 片山純子(1口) 山口愛子(1口) 八木道子(1口) 和田治江(1口) 金田幸子(1口) 春日曠(1口)
 河口道子(1口) 岩月優子(1口)

国際協力費・運営費 寄付者一覧 ※2,000円未満は省略させていただきます。

織田佐由子(12,000円)、陶守俱行(10,000円)、松本安代(10,000円)、小沢秋子(10,000円)、(株)イヨベ工芸社(10,000円)、松浦美帆(5,000円)、古谷朋子(3,000円)、筒井美香(3,000円)、片山純子(3,000円)、山口愛子(3,000円)、高倉昌子(3,000円)、伊藤弘美(3,000円)、柏木昭雄(3,000円)、岩月優子(3,000円)、塚越幸代(3,000円)、池上洋子(3,000円)、田辺三矢子(2,000円)、川鍋加代子(2,000円)

SNSでもIV-JAPANのお知らせをご覧になれます。
 ぜひ、ご登録おねがいいたします。



@IVJAPANHQ



@706lmpfg



@IvJapan



IVJAPANMIHASHI

“クレジットカード”からもご寄付できます！

(国際協力費・運営費のみ)

1回のご寄付または、毎月のご寄付(500円～)をお選び頂けます。



詳しくは
 ←ホームページ
 をご覧ください。

IV-JAPANの活動はみなさまのご寄付に支えられています

●IV-JAPANに寄付をすることで活動に参加しませんか？

- ①カノック奨学金 12,000円(1口)以上 奨学生の授業料補助になります
 ②チャンパー山の民奨学金 60,000円(1口)以上 訓練中の食費や交通費として
 ③国際協力費・運営費 個人:3,000円以上/団体・法人:10,000円以上

●申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替:(口座番号)00140-5-537168 (加入者名)IV-JAPAN

銀行振込:埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号:5038052

名義人:(特非)国際協力 NGO・IV-JAPAN



認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局

〒330-0856

埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101

TEL/FAX:048-622-8612

E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ホームページ:<https://iv-japan.org/>

ラオス事務所

P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR

TEL/FAX: +856-21-316047

E-mail: ivjapan.vte@gmail.com



アカウンタビリティ
 セルフチェックマーク